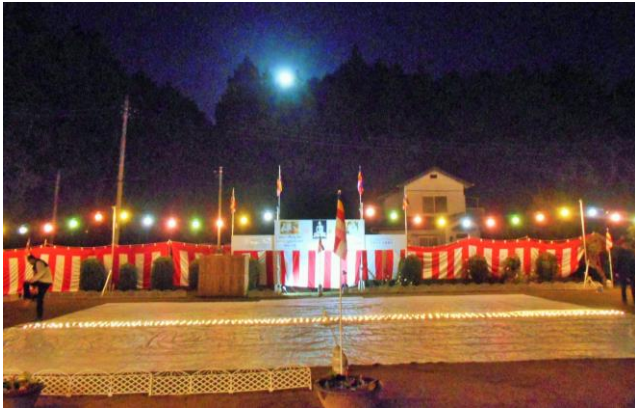


◎満月の日の伝統 灯明祭



2018年11月22日(木)満月のウボサタの日の夕方、浄心庵シーマー(戒壇)において、三宝の徳と恩を念じ尊敬合掌して、灯りを灯して供養する、灯明祭が Daw Aye Aye Nyein 様によって行われました。

同日は、Daw Aye Aye Nyein 様のお誕生日でもあり、三宝と大長老の徳と恩を念じて300個の蝋燭をご供養し、当会会員有志らと共に、浄心庵シーマー(戒壇)の中央部、北から南へ、直線に荘厳されました。

三宝と戒定慧のエネルギーに満ち溢れた浄心庵シーマー(戒壇)は、穏やかにゆれる蝋燭の炎、提燈の灯り、そして満月の優しい光に包まれ、だれもが立ち止まらずにはいられないくらい、淨らかに耀き放ち、幻想的な空間でした。通る人々は、立ち止まり、振り返り、尊敬合掌礼拝されました。



◎第39回「シーマー(戒壇)・仏塔建立」

プロジェクト会議 ～設計計画・10～

2018年11月23日(金)午後3時30分、浄心庵精舎メンタルフレンドハウスにおいて、第39回の会議が行われました。ミャンマー国から「吉祥なる定礎儀式」のためにはるばる来日され、浄心庵シーマー(戒壇)・仏塔建立のために大きな功德を申し出られた第一人者ともなるミャンマー国家顧問省副大臣 H.E.U Khin Maung Tin 閣下の代理として、奥様の Daw Aye Aye Nyein 様をはじめ、浄心庵シーマー(戒壇)・仏塔建立のための設計を申し出てくださいました有力者ともなる株式会社入江三宅設計事務所(IMA)、ヤンゴン事務所取締役 SOE WIN TUN 様、計画・技術部担当部長 坂本真一様、そして当会代表吉田、合わせて4名が参加し、ナモータッサ礼拝を唱えて、はじまりました。

U SOE WIN TUN 様によるミャンマー語へのご通訳で、設計者の坂本様から、最新図面の提示、完成までの工程などを、詳細に Daw Aye Aye Nyein 様へご説明して頂きました。予算や費用などについては、現状を吉田からご報告いたしました。

Daw Aye Aye Nyein 様と対面してお話しは、2017年3月17日のミャンマー会議以来でした。ミャンマー国でも、建立計画が成功するように真摯にお考え(右列下へ)ノ

◎シーマー(戒壇)建物・シェーダゴンパゴダ形仏塔建立
吉祥なる定礎儀式



2018年11月24日(土)午前7時30分、「シーマー(戒壇)建物・シェーダゴン形仏塔建立 吉祥なる定礎儀式」が始まる前に、浄心庵・瞑想堂において、参加者全員が集合しました。

前日から浄心庵仏像の前に供養されたシーマー(戒壇)建物の9つの方角の地中に奉納する「9つの宝物」などを参加者全員一人一人が尊敬して丁寧に手で持ち、浄心庵シーマー(戒壇)へ運びました。



→(左列の続き) くださり、国際電話を通して、お話しする機会もありました。

今回は、日本浄心庵シーマー(戒壇)・仏塔建立予定地のそばで、今後の予定などをより具体的に話し合うことができました。

最後に「お釈迦さまの教えが永く存在できますように」というパーリ偈文を唱和し随喜して終了しました。



午前8時、浄心庵シーマー（戒壇）「Sasana Siri Dhara Sima（お釈迦さまの教えが伝わるために品位を保つ浄心庵戒壇）」において、大長老を導師として、「シーマー（戒壇）建物・シェーダゴン形仏塔建立 吉祥なる定礎儀式」が厳かに執り行われました。

はじめに全員でナモータッサ礼拝を唱え、三帰依と五戒を授かった後、定礎儀式の次第となりました。

建物の9つの方角に据える礎として、建物の土台となる土地そのものにエネルギーをもたらすために、地中深くへ埋める九種の宝石をはじめ、金・銀・赤色のレンガなど「9つの宝物」を、会員それぞれが手づから比丘さま方にご供養いたしました。

その後、比丘サンガは慈経と厄除けの経を唱えられました。



9つの宝物

- | | |
|-------------------------------------|---------------|
| 1. 護経の水 | 5. 九種の宝石 |
| 2. 護経の糸 | 6. 赤レンガ |
| 3. 自然の石 | 7. 銀レンガ |
| 4. 護経の砂 | 8. 金レンガ |
| (インドブッダガヤをはじめとする
八大仏跡の土を混ぜ込んだ白砂) | 9. 香りのある浄らかな水 |



大長老はひとつひとつの意味を、ミャンマー語と日本語両方でご説法し、丁寧に手順を説明しながら儀式を進めてくださいました。

はじめに、各方角へ「9つの宝物」を運び届ける方々の名前が呼ばれました。



そして、東北の方角をはじめとして、東、東南から北までの八方、そして中心部へと順に、グループごとに名前が呼ばれました。

それから、各方角ごとに定礎していきました。

比丘サンガの前に置かれた、護経の水をはじめ、八大仏跡の土、そして宝石、レンガなどの「9つの宝物」が会員をはじめ関係がある人々の手によって丁寧に運ばれ、東北のグループの人々に手渡されると、直径約5cm、深さ約180cmに通ずる孔に、護経の水から順に投入され、赤色のレンガをこのシーマー（戒壇）の土地に定礎した後、比丘サンガをはじめ、参加者全員で、仏陀の九徳を心を込めて念じ、ゆっくり唱和しました。

つづけて、土地の上に銀・金のレンガを定礎しました。その処に、日本のめでたき松の木と、ミャンマーの吉祥のサペイの木で、香りの水を振掛けた後、孔の上に境界杭を据え、東北の方角の定礎が完了しました。



次は東の方角、次には東南の方角へと一ヶ所一ヶ所丁寧に儀式は進められ、最後の中心部には、大長老をはじめ5名の比丘サンガが、護経の水から順に九種の宝石を奉納した後、特別に「初転法輪経」、「無我相経」、「大念住経」を説かれたそれぞれの場所の土、これら3つの土を孔に入れ、赤レンガをこのシーマー（戒壇）の土地に定礎した後、ブッダの九徳、さらに、ダンマの六徳、サンガの九徳を比丘サンガをはじめ、参加者全員で、心を込めて念じ唱和しました。

つづけて、土地の上に銀・金のレンガを定礎し、その処に、日本のめでたき松の木と、ミャンマーの吉祥のサペイの木の葉で、香りの水を振掛けた後、孔の上に境界杭を据え、9つすべての方角の定礎が完了いたしました。



その後、大長老によって、祝福偈文をパーリ言葉、ミャンマー語、日本語で唱えられ、参加者全員は、喜びの心で3回「サードゥ サードゥ サードゥ」と念じ唱え、随喜しました。

このように、特別なエネルギーがある土地となったシーマー（戒壇）の中で、比丘サンガの前に、参加者全員は、この日に積んだ尊い得難い大きな功德を回向しました。

最後に、大長老のお導きの下、「お釈迦さまの教えがなくならないで永く存在できますように」という意味のミャンマー語の偈文とパーリ語の偈文「Buddha sāsanaṃ ciraṃ tīṭhatu.」を心から念じ唱和し、「シーマー（戒壇）建物・シェーダゴン形仏塔建立 吉祥なる定礎儀式」はめでたく幕を閉じました。

儀式を無事に成し遂げられた聖なる戒壇から列をなして出て来られる比丘サンガのエネルギーは、特別に浄らかなので、参加された方々は、このようなエネルギーがある比丘サンガに、それぞれお布施をすることができ、さらに特別高貴な功德を得ることができました。



大長老の偉大なお智慧により、「浄心庵シーマー（戒壇）建物・シェーダゴン形仏塔建立 吉祥なる定礎儀式」は、歴史に残るものとなりました。大長老の大いなる慈悲と叡智あるお導きによって、特別な功德・波羅蜜を積む尊い機会をいただきましたことに、心から感謝申し上げます。

◎ミャンマー国家顧問省副大臣

H.E.U Khin Maung Tin 閣下ご家族ご帰国

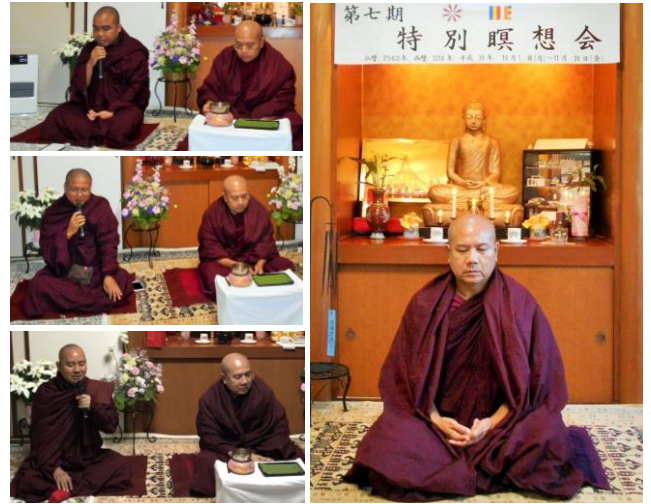
2018年11月24日（土）午後1時30分、浄心庵・瞑想堂において、ミャンマー国家顧問省副大臣 H.E.U Khin Maung Tin 閣下ご家族 3名と、会員有志が集まりました。ご家族3名は、ミャンマーへご帰国される前に、三宝と大長老の徳と恩を念じ、尊敬合掌礼拝され、敬意と感謝を表しご挨拶され、大長老は祝福されました。最後に、浄心庵で積まれたすべての功德を回向され、参加者一同、随喜いたしました。

その日の夕方の便でミャンマーへご帰国するため、浄心庵精舎から直接、羽田空港へ向かわれました。

帰り際には、葉書に印刷された、閣下自ら描かれた「2017年浄心庵シーマー（戒壇）認定儀式」の浄らかな風景画（右列下）を、集まった会員有志らに、閣下の手から一人一人に配られました。



◎第7期特別瞑想会が終了しました



2018年11月30日（金）8日目のウポサタの日、浄心庵精舎において、2018年10月1日（月）から開催された2ヶ月間の第7期特別瞑想会が終了しました。

今年の特別瞑想会の期間中には、「吉祥なる定礎儀式」をはじめとして、様々な儀式が行われ、多くの日本人、ミャンマー人が功德を積むために、参拝のため来庵されました。

大長老の大きな慈悲と共に、比丘サンガのエネルギーが放った浄心庵精舎で、瞑想者の方々は、大長老のご指導のもと、八正道（戒・定・慧）を実践し、瞑想に専念されました。

終盤には、ミャンマー比丘サンガによる「夜の説法会」が三夜連続で行われ、大長老の通訳を通して尊い教え戒めを賜わるという、大変得難い貴重な機会をいただきました。

11月26日（月）Bhaddanta Supanyinda 比丘

「三つのお客さん」

11月27日（火）Bhaddanta Janinda 比丘

「五つのサッパヤー sappāya（ふさわしいこと）」

11月28日（水）Bhaddanta Paññāloka 比丘

「大念住經の実践で得られる七つの結果」

この2ヶ月間、瞑想者71名、参拝者145名、儀式参加者約200名の方々が来庵されました。来庵された方々はそれぞれ、退庵される前に、大長老より祝福を賜わり、大長老のお導きの下、浄心庵精舎で積んだすべての功德を回向して随喜され、大きな功德を法のお土産としてお帰りになりました。

今年もこのような特別瞑想会の機会を与えてくださった大長老に心より感謝申し上げます、日頃から特別瞑想会を支えてくださる会員の皆さま、関係者の皆さまに心より御礼申し上げます。この特別瞑想会で積まれた大きな功德に随喜申し上げます。

サードゥ サードゥ サードゥ

